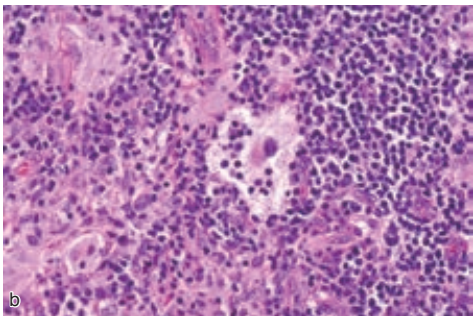

図 21.71　Rosai-Dorfman 病（Rosai-Dorfman disease）
a：皮膚型．顔面の赤褐色の局面がみられる．b：病理組織像．組織球内にリンパ球が取り込まれているようにみえる（emperipolesis）が，貪食されているわけではない．

3. 良性頭部組織球症　benign cephalic histiocytosis

小児に好発し，直径 3 mm ～ 1 cm の紅褐色の斑や丘疹，結節が顔面，耳朶（じだ），頸部に散発する（**図 21.70**）．病理組織学的に真皮内に単調な単核組織球様細胞の浸潤をみる．Langerhans 細胞組織球症（22 章 p.480 参照）との鑑別を要する．腫瘍細胞は CD68 陽性，S-100 陰性，CD1a 陰性．通常自然消退し，黄色肉芽腫に包含されると考えられる．

4. Rosai-Dorfman（ローザイ ドルフマン）病　Rosai-Dorfman disease

同義語：sinus histiocytosis with massive lymphadenopathy

中年に好発する．主に頭頸部のリンパ節で組織球が増殖することで，リンパ節腫大をきたす．病理組織学的に，組織球内にリンパ球が取り込まれているようにみえる像（emperipolesis）が特徴的である（**図 21.71**）．リンパ節以外にも，皮膚や種々の臓器で同様の組織球浸潤をきたすことがある．皮膚病変のみを生じることもあり，皮膚型と呼ばれる．

J. 脂肪細胞系腫瘍　fat cell tumors

図 21.72　脂肪腫（lipoma）

脂肪腫　lipoma　★

全身のどこにでも生じ，単発性または多発性で，大きさは 1 ～ 10 cm と大小種々である（**図 21.72**）．通常は皮下組織に存在し，柔軟で可動性に富む．多くは軟らかく触れる．自覚症状は通常ないが，神経を圧迫すると疼痛を訴えることがある．

成熟脂肪組織の増殖がみられ，腫瘍細胞は薄い結合組織被膜で囲まれていることが特徴である．種々の間葉系組織要素が混在することがあり，線維脂肪腫（fibrolipoma），血管脂肪腫（angiolipoma），筋脂肪腫（myolipoma）などと呼ばれる．このうち血管脂肪腫は多発しやすく，圧痛を伴いやすい．脂肪芽細胞（lipoblastic cell）がみられることもある．いずれも良性の間葉系腫瘍である．悪性化はきわめてまれであるが，徐々に増大するので必要に応じて外科的切除を行う．